

## 健育会の学会への取り組みと発表実績集について

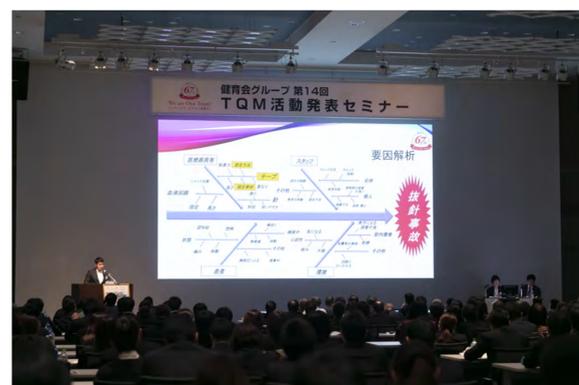
医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



健育会は、医療や看護、リハビリテーション、介護に関するさまざまなグループ外の学会に毎年参加しており、その発表内容は年度ごとに『発表実績集』としてまとめています。その取り組みは、医療関係者だけでなくその他の健育会のステークホルダーの皆さんからも高い評価をいただいています。今回は、私たちがなぜ学会発表に力を入れているのか、説明したいと思います。

新型コロナウイルスの影響により、今年開催を予定していた第14回看護リハビリテーション研究会（3月）と第14回チーム医療症例検討会（6月）は開催を延期していますが、健育会では、他にも「TQM活動発表セミナー」や「医師研修会」といったグループ内の学会を毎年開催しています。民間の医療機関にかかわらず、健育会がグループ内外を問わずこれほど積極的に学会発表を行う理由は、医療の現場には科学的な考え方が必要だからです。その考え方を発表という形でまとめることによって、常に意識できるようになります。

私は、学生時代に発表をしたり、資料を作成したりすることを徹底的に叩き込まれました。その経験は、現在に至るまで私自身に大変役立っています。また、医療に関わる者は、自ら知識を学び、成長し続けなければいけません。健育会が学会発表に力を入れるのは、実はこうした私の経験や考えに基づいています。



グループ外での学会発表をまとめた実績集は、平成26年度から毎年発行しており、2019年度版で6冊目となりました。昨年は、石巻健育会病院が運営した「第21回フォーラム『医療の改善活動』全国大会in仙台」に健育会グループから21チームが参加したこともあり、合計104題を掲載し例年以上に充実した内容になっています。この実績集は、健育会グループ職員の教育研修のために発行しているものです。職員の皆さんには、ぜひ目を通してほしいと思います。

また、健育会看護部では、教育研修の一環として「学研ナーシングサポート」のe-ラーニングを主体としたステップアップ研修や看護研究勉強会なども実施しています。2014年には『患者さんに安心感を提供するために～健育会看護部 継続教育の取り組み～』という冊子を作成。看護職が健育会の教育研修体制をより理解するためのもので、管理者との面接時の「自己能力評価」や「成長段階における課題の明確化」、学校などで健育会グループの看護部を紹介する際にも活用されています。



これらの教育研修の体制は、職員各自の学習意欲を高め、グループ内外の学会におけるよりレベルの高い発表へとつながっています。そしてその学会発表を実績集によってグループ内で共有することにより、健育会全体の医療の質が、更に向上するという好循環が生まれているのです。グループ外の人と話をしたときに「健育会は勉強熱心だ」と言われることがあります。それは健育会の大きな強みの一つ。私は、そのことを誇りに感じると同時に、今後も「目の前の患者さんを救う」ために成長したいという職員の気持ちに応えていきたいと思っています。